

倉青協創立40周年記念誌



倉青協創立40周年記念誌



倉庫業青年経営者協議会

倉庫業青年経営者協議会

倉庫業青年経営者協議会



倉庫業青年経営者協議会のシンボルマークは、会員意識の高揚と会員以外の方からも親しまれることを目的に開発されました。

ヤング(YOUNG)・ウェアハウス(WAREHOUSE)の頭文字「Y」と「W」を使用し、「清新さ」「若々しさ」をモチーフにグラフィックデザイナー・金原明彦氏がデザインを手掛けてくださいました。

目次

Action for next stage!	1
会長あいさつ	3
年表	5
開催地 map	21
座談会 Part-1	23
座談会 Part-2	29
寄稿	35
創立 40 周年を迎えて	醍醐 正明 3
倉青協 40 年のあゆみ	5
ヒトを育て、会社を育てる組織—それが倉青協だ!	23
親睦と勉強～倉青協に愛を込めて	29
日本に倉青協あり	鈴木 裕司 35
いやー、いろいろありましたね	鳥谷部 眞実 37
「倉青協さん」に愛を込めて!!	曾根 和光 38
素晴らしき哉、倉青協!	太宰 榮一 39
倉青協の仲間づくりと事業の連携	堀畑 浩重 41
倉青協の意義	生川 泰成 43
「倉青協」のお陰で	野口 英徳 45
「親睦と勉強」は伊達じゃない	前山 諭 46
優れた人材の宝庫	山田 英之 47
50年、100年と年輪を刻む倉青協に	安藤 暢啓 48
倉青協の存在、役割を進化させる	若松 孝夫 49
倉青協始まって以来、三世代会員に	村田 龍一 50
倉青協という学舎	吉野 榮治 51
倉青協ってスゴイ!	高嶋 民仁 52
東日本大震災と倉青協	53
倉青協仙台大会	57

Action for

next stage!

課題や悩みを共有し、互いに刺激を受け、ともに成長

環境変化に適切に対応し、 新たなステージへ。

倉庫業青年経営者協議会(以下・倉青協)は、2013年5月に創立40周年を迎えました。50歳以下の倉庫経営者が、「親睦と勉強」という理念の下、全国から集い、同じ立場で課題や悩みを共有し、互いに刺激を受けながら、ともに成長してきました。

こうした倉青協の活動の根幹は40年前と変わることなく、世代を越えて受け継がれています。

現在、倉庫業を取り巻く環境は目まぐるしく変化しており、経営者としてのかじ取りにも判断力とスピードが求められています。倉青協では、地域の倉庫見学をはじめとする会員同士のオープンな情報交換に加え、会員企業の社員も参加する「企業交流会」を積極的に開催するなど、経営のみならず日々の業務に役立つ活動を展開しています。

40周年の節目を前に、わが国は東日本大震災という未曾有の災害を経験しました。倉青協もこの困難を乗り越え、倉庫業の環境変化に迅速かつ適切に対応し、新たなステージに向かわなければなりません。

「Action for next stage!」

倉青協の新しい歴史が、いまここから始まります。

新たな価値の創造



情報
Information

会員
Members

新しい倉庫業
New Warehousing

業界のレベルアップ、産・官連携による“倉コミュニケーション”

活動理念「親睦と勉強」

1973年の創立以来、倉青協を貫く理念は「親睦と勉強」です。当時、日本はオイルショックに端を発し、高度経済成長が終わり、景気悪化と財政悪化という国難の様相を呈していました。国家の隆盛を憂う倉庫業青年経営者有志たちの間では、新たな業界のあり方を模索し、既存の活動とは異なる新団体結成の機運が高まっていました。

各地の有志たちは、新組織について

- ①全国組織であるため、まず会員同士が知り合い、意思の疎通を図ること
 - ②経営者としての研鑽、倉庫業の勉強を中心として、幅広い資質の向上を図ること
- こそが互いの志であると確認しあいながら同志を募り、これが創立以来、当協会を貫く「親睦と勉強」の理念となりました。

当協会についての初期メンバーの言葉に、「互いに血の通った相互補完の関係を保つための組織であり、物流革新下の倉庫業の将来のあるべき姿について、若者同士の模索の場である」とあります。それは奇しくも、リーマンショック・欧州債務危機・東日本大震災をはじめとした、経済的に困難な状況下の今日のわれわれの課題となんら変わるものではありません。

当協会には、協会組織としては他に類をみない、互いの共通課題を率直に話し合える風土があります。会員同士の連帯意識が緊密で、「何でも腹を割って話せる」という文化的な特色があります。

これは創立以来、歴代の先輩たちからの貴重な財産であり、当協会の最も重要な文化と言っても過言ではありません。

活動内容

年1回、総会が東京で、また、年2回の全体会が地方で行われています。

総会や全体会では、有識者による講演や同業者の事例研究を行い、「勉強」をしています。全国各地で開催される全体会は、地方幹事の創意工夫がこらされて多彩な催しが企画され、「親睦」の助けとなっています。

会員のみならず、会員企業の社員も参加して行われる「企業交流会」では、各種物流施設の見学をはじめとして、社員に幅広い見識を培いたい会員の希望により、異なる業種の施設の見学も積極的に行われています。見学の後には、グループワークや討論会によって、交流と相互理解を深める活動となっています。

近年は、実務に即した政策への提言を積極的に行おうと、国土交通省の物流政策担当との情報意見交換にも取り組んでいます。

さらには、会員同士の自主的な勉強会や、親睦会、異業種との情報交換会、地方ごとの会員による勝手連的な新規会員掘起こし活動や、既存会員の結束を強める活動など、常に革新と変化を求める「若手経営者」らしく、パワフルで、既存の枠にとらわれない活動が、各方面で活発に行われています。



倉庫業青年経営者による積極的な知的交流

創立40周年を迎えて

倉庫業青年経営者協議会 第19代会長



醍醐倉庫株式会社 代表取締役社長
醍醐 正明

倉庫業青年経営者協議会は1973年5月に設立され、今年で40周年を迎えることになりました。40年といえば成人式2回分。メンバーも設立当初から全員入れ替わり、メンバーの中には3世代連続倉青協会員の方も出始め、あらためて歴史の長さを感じます。こうした長い期間、活発な活動が継続してこられたのも、ひとえに先輩会員各位のご協力の賜物と感謝申し上げます。

倉青協は設立当初から、「親睦」と「勉強」を二本柱に活動してきました。この「勉強」について、各社の情報開示のオープンさにはずっと驚かされました。なんでこんなことまで教えてくれるんだろう、という驚きが参加当初の頃からありました。他の会では考えられないざっばらんな会風に幾度となく助けられました。この仲間にならずべてを見せても大丈夫という深い信頼感が、倉青協に対してあるからだと思います。また50歳以下という青年期に知り合えているということも影響しているのかもしれませんが。

50歳以下の同世代で、社長もしくは後継者という同じ立場で、倉庫業という同じフィールドで商売をしている仲間。そうした同じ境遇にある者の全国の集まり。そのメンバーが一堂に会するというだけでも大きな意味があると思います。また「親睦と勉強」という理念をもとに一生懸命に取り組んできた長い伝統が、今の倉青協を形づくっているのだと思います。

ここまでざっばらになれるのは、日頃のあそこまで爆発する懇親会ですべてをさらけ出しているからかもしれません。

2011年3月11日の東日本大震災は日本全体に大きな傷跡を残しましたが、会員企業にも大きな影響を与えました。震災後の対応は、倉青協のまとまりを示すきっかけになったと思います。今回の記念冊子では「東日本大震災と倉青協」というテーマで特集を組ませていただきました。詳細は特集をご覧くださいと思いますが、この地震大国の日本ではいつまたどこで大きな地震が起こるか分かりません。非常の事態には、会員みんなで助け合い、支援するという気持ちを忘れないために、記録させていただきました。

今後とも倉青協の良い伝統を引き継ぎ、さらに活発な活動になっていくことを祈念して、挨拶に代えさせていただきます。今後50周年、100周年を迎えていく倉青協がどのように変遷していくか楽しみです。

歴代会長 (1~19代 1973~2013)

初代 (1973.5~1977.5) 「親睦と勉強」 鈴木 又右衛門 太成倉庫(株)	第2代 (1977.5~1979.6) 「親睦と勉強+助け合い」 河野 鐵雄 湘南倉庫運送(株)	第3代 (1979.6~1981.6) 「協業」 古川 浩司 芸備倉庫(株)	第4代 (1981.6~1983.6) 安田 肇 大黒倉庫(株)	第5代 (1983.6~1985.6) 「道は一つ共に進もう」 清水 修一郎 中京倉庫(株)	第6代 (1985.6~1987.6) 「倉庫業を見直そう」 西尾 忠朋 (株)西尾倉庫	第7代 (1987.6~1989.6) 「倉庫業の明日をめざして」 小泉 駿一 第一倉庫(株)	第8代 (1989.6~1991.6) 「元気のでる倉庫業へ」 山本 信彦 小樽倉庫(株)	第9代 (1991.6~1993.6) 鈴木 威雄 (株)富士ロジテック	第10代 (1993.6~1995.6) 末長 範彦 岡山土地倉庫(株)
第11代 (1995.6~1997.6) 「倉庫業の未来に夢を語ろう」 大竹 広明 三信倉庫(株)	第12代 (1997.6~1999.6) 「倉庫会社の生き残り戦略」 眞鍋 博俊 (株)博運社	第13代 (1999.6~2001.6) 「希望の持てる二十一世紀の倉庫業を見据えて」 森本 啓久 森本倉庫(株)	第14代 (2001.6~2003.6) 「明るく改革する倉庫業を見据えて」 黒川 久 東邦運輸倉庫(株)	第15代 (2003.6~2005.6) 「会員会社の企業規模での交流」 樋口 恵一 川崎陸送(株)	第16代 (2005.6~2007.6) 「明るく改革する倉庫業を見据えて」 社本 光永 福玉精穀倉庫(株)	第17代 (2007.6~2009.6) 「親睦と勉強、真面目な倉庫業」 鈴木 篤 太成倉庫(株)	第18代 (2009.6~2011.6) 「倉庫業の明日を創造する」 浅野 邦彦 浅野運輸倉庫(株)	第19代 (2011.6~2013.6) 「Action for next stage!」 醍醐 正明 醍醐倉庫(株)	

1973~1983

「親睦と勉強」テーマに倉青協が発足

1973年5月、全国から50歳以下の倉庫経営者120人が集まり、日本倉庫協会と連携しながら明日の倉庫業を若い力で造り上げようとする「倉庫業青年経営者協議会」が設立されました。初代会長に就任した鈴木又右衛門会長が掲げたテーマが「親睦と勉強」です。当時倉庫業は物流合理化のほか、コンピュータシステムの導入や荷役の機械化など時代の要請に対応することが求められていました。設立からまもなく、76年には倉青協有志による「日本縦貫倉庫グループ」が発足します。全国規模のサービスを提供するために中堅倉庫会社の協業を目指したもので、倉青協は同業者によるネットワークの重要性をいち早く認識していたといえます。



グローバルな視点を倉庫業に導入

設立当初の倉青協の活動の中で、注目すべきなのが海外研修です。初の海外研修を77年に行い、78年にはヨーロッパ視察とアテネでの国際倉庫協会連盟(IFWLA)にオブザーバーとして14人が出席しました。歓迎を受けた一行は、翌年には香港大会に出席するよう要請を受けます。帰国後、日倉協のIFWLAへの参加を働きかけ、日倉協に国際委員会が発足することになりました。そして83年にはIFWLA総会が日本で開かれることとなります。昨今、製造業の海外シフトによるグローバル化、ボーダレス化が加速し、倉庫業の対応が課題となっていますが、倉青協は設立まもない頃からグローバルな視点を持っていたことは興味深いことです。



全体会・総会の記録

一般社会・物流の動き

1973 (昭和48)

- 5.18 **設立総会** 東京 パレスホテル
運輸省 佐藤 政務次官
日倉協 竹内 会長
東倉協 八十島 会長
運輸省 増田 倉庫課長
- 7.20 **第1回全体会** 大阪 ロイヤルホテル
運輸省 増田 倉庫課長
「広い心、受け入れる心、柔らかい心の三つの要素を
忘れずに会の運営に当たってほしい」
- 10.5 **第2回全体会** 東京 ホテルニュージャパン
運輸省 増田 倉庫課長 「倉庫の集団化」
中小企業金融公庫 河野 次長 「倉庫業における金融について」

- 1月 パリでベトナム和平協定調印
- 2月 円、変動相場制へ移行
- 4月 春闘で史上初の交通ゼネスト
- 10月 第一次オイルショックでトイレットペーパー
パニック
- 12月 政府が石油緊急対策要綱決定



福山通運が北九州支店に導入したトラック業界初の自動仕分け機

1974 (昭和49)

- 2.8 **第3回全体会** 名古屋 都ホテル
東海海運局 山田 運輸部長 「今後の倉庫業のあり方」
- 5.14 **第2回総会 第4回全体会** 東京 東京会館
運輸省 増田 倉庫課長 「48年度間に於ける報告事」
「49年度行政方針について」
河野 参議院議長 「一隅を照らすこれ国宝」
- 7.18 **第5回全体会** 石川 片山津 矢田屋
日倉協 岡田 専務理事 「日倉協活動状況及び強化について」
西川 流通委員長 「国鉄問題について」
前田 財務委員長 1「景気見通しへの指標として」
2「日倉協財務委員会について」
3「これからの倉庫経営について」
- 10.23 **第6回全体会** 神戸 神戸国際ホテル
運輸省 増田 倉庫課長 1「倉庫整備5カ年計画の推移について」
2「料金改定問題」
3「税制、金融、財投について」
4「物流行政の指向」
大阪港湾福利厚生協会 川田 理事 「経営者に望むこと」

- 2月 公取委が石油元売 12社の生産・価格カルテル
破棄を勧告
- 4月 東京・旧赤坂離宮を改修した迎賓館完成
- 5月 環境庁がディーゼル車にも排ガス規制
- 8月 三菱重工ビル爆破事件
- ◆ インフレ・物不足が深刻化

1975 (昭和50)

- 3.14 **第7回全体会** 福岡 博多東急ホテル
早稲田大学 中西 教授 「転換期に於ける倉庫業について」
運輸省 増田 倉庫課長
- 5.21 **第3回総会 第8回全体会** 横浜 横浜ホテルニューグランド
国旗協会 平田 敬量 常任理事
- 7.21 **第9回全体会** 仙台 仙台作並グリーンランドホテル
運輸省 近藤 倉庫課長
「これからは低成長が通説になる。現業者は物流に対する
対処は正しいか質的な面で考え直す必要がある」
- 11.1 **第10回全体会** 沖縄 沖縄不二ホテル
日本銀行那覇支店 河野 支店長 「沖縄復帰後の経済」

- 3月 山陽新幹線が博多までの全線開通
- 7月 沖縄国際海洋博開幕
- 8月 大手繊維メーカーの興人が1500億円の負債
で倒産
- 11月 公労協「スト権スト」に突入。192時間にわ
たり国鉄全線マヒ
物流業者が流通加工業に積極的進出



急増する輸出荷物で賑わう横浜港

1976 (昭和51)

- 2.13 **第11回全体会** 広島 広島グランドホテル
蚕糸倉庫 花井 社長 「全体会映画」
鈴木 会長 1「遠隔地間での業務提携」
2「物流の中心は倉庫業である」
- 5.28 **第4回総会 第12回全体会** 東京 ホテルニューオータニ
河野 参議院議長 1「事業は環境によって育ち人によって減ぶ」
2「日本に大事なことは食料問題だ。
今日あって明日の保証はない」
3「サビは鉄から出て鉄を減ぼす」
4「体育、知育、徳育、体に財を蓄える」
- 7.20 **第13回全体会** 札幌 札幌全日空ホテル
日倉協 高味 常務理事 1「損害賠償の問題について」
2「料金問題について」
3「税金問題について」
4「金融面について」
- 10.29 **第14回全体会** 京都 京都グランドホテル
早稲田大学 中西 教授 「レポートによるアメリカの倉庫協会」
京都大学天文学博士 宮本 名誉教授

- 2月 ロッキード事件発覚
- 3月 運輸省が新倉庫整備5カ年計画を策定
- 11月 国鉄貨物運賃53.9%値上げ
- ◆ 荷主が物流子会社設立に動く
- ◆ 小口貨物輸送、内航海運の見直し
- ◆ 共同配送の具体化へ
- ◆ 物流業界の不況が長期化
- ◆ 国鉄運賃の大幅値上げに伴い荷主の国鉄離れ
進む
- ◆ 日本縦貫倉庫グループ誕生
- ◆ 運輸省がボックスパレット推進へ

1977 (昭和52)

- 2.18 **第15回全体会** 別府 別府杉の井ホテル
日倉協 岡田 専務理事 1「料率実施委員会の組織の強化」
2「物流について」
大分市 佐藤 市長 「現在の経済情勢及び大分市の現況について」
- 5.20 **第5回総会 第16回全体会** 東京 パレスホテル
運輸省 石井 一 政務次官
「空港問題、国鉄問題について」
運輸省 坪井 倉庫課長 「業界のあるべき姿について」
- 7.22 **第17回全体会** 岐阜 長良川ホテル
西濃運輸(株) 田口 社長
「私の経営路線、理念について」
日倉協 高味 専務理事 「53年度種別財政融資について」
運輸省 坪井 倉庫課長 「業種展望並びに将来予測について」
- 11.9 **第18回全体会** 奈良 菊水楼
日倉協 高味 専務理事 「日倉協の動向について」
薬師寺管主 高田 好胤氏 「南方諸島戦没者慰霊法要の土産話」

- 5月 領海12海里、200海里漁業水域設定法案が国
会通過
経営危機で安宅産業が伊藤忠商事と合併
- 6月 3年8ヶ月ぶりに、円相場が1ドル270円を割る
不況長期化で倒産件数が増加に
国鉄貨物量の大幅減少
各種定料金の値上げ相次ぐ
「小口宅配貨物」に人気集中

全体会・総会の記録

一般社会・物流の動き

1978 (昭和53)

- 2.23 **第19回全体会** 浜松 浜松グランドホテル
静岡経済研究所 山崎 部長 「経済情勢の現状と将来展望」
- 6.14 **第6回総会 第20回全体会** 東京 パレスホテル
運輸省 坪井 倉庫課長
1 「物流全般について」
2 「物流子会社に対する問題」
3 「自家用倉庫と営業倉庫の考え方」
小此木 参議院議員
「一般情勢及び国会内に於ける委員会の活動状況審議成立等」
- 8.25 **第21回全体会** 箱根 箱根プリンスホテル
花王石鹸(株) 山越 専務取締役
1 「物流の問題 花王のシステムについて」
2 「倉庫としての流通設計システムをもっているか」
- 10.27 **第22回全体会** 神戸商工会議所
日倉協 高味 専務理事
1 「倉庫業法改正について」
2 「消費税について」

- 1月 円相場が1ドル237円台を記録
10月には175円に
- 2月 大手住宅メーカーの永大産業が会社更生法申請
- 5月 新東京国際空港(成田)開港
ユニット・ロード・システムの見直し

1979 (昭和54)

- 3.15 **第23回全体会** 高知 三翠園ホテル
「日倉協報告」
1. 国際倉連、香港大会
2. 倉庫業海外視察団、今年はヨーロッパを予定
3. 中国から倉庫視察団が来日
- 6.14 **第7回総会 第24回全体会** 東京 パレスホテル
循方 彰元 NHK解説委員長
「アメリカ、ソビエトの軍需力、平和共存、現在エネルギー問題となっている石油の輸出入等について」
- 8.30 **第25回全体会** 岡山 国際ホテル
岡山大学法文学部 福田 部長
「中華人民共和国と台湾等を旅してみた古い中国」
- 11.18 **第26回全体会** 京都 都ホテル
松尾寺住職 松尾心空師
「人間はこの世の間借り人である」

- 1月 米・中外交関係30年ぶり樹立
- 5月 通産省、ガソリンスタンドの日・祝日休業の行政指導強化
- 6月 東京で初のサミット(先進国首脳会議)開催
- 7月 東名高速道日本坂トンネル火災事故で通過車両169台炎上の大惨事
- 11月 第2次オイルショック

1980 (昭和55)

- 3.28 **第27回全体会** 宮崎 サンホテルフェニックス
自民党農林水産部 近藤 会長
「現在の政治情勢、予算編成の問題点、食管制度その他の社会問題について」
- 5.28 **第8回総会 第28回全体会** 東京 パレスホテル
日本国有鉄道 高木 総裁
「現在の国鉄に於ける特異な体質、これからの国鉄の経営方針等について」
- 8.8 **第29回全体会** 静岡 修善寺グランドホテル
修善寺町文化財保護委員会 長倉氏
- 11.17 **第30回全体会** 横浜 横浜プリンスホテル
NHKアナウンサー 鈴木 文弥氏
「スポーツ界での指導者から教わったこと、見て感じたこと」

- 4月 電力50.8%、ガス45.3%の大幅料金アップ
- 6月 憲政史上初の衆参同時選挙
- 9月 イラン・イラク全面戦争
- 12月 自動車生産台数が1,104万台で世界一に
- ◆ 「スリップシート」が話題を呼び、研究が盛んになる
- ◆ 「運送状に印紙貼付」を国税庁から指導要請

1981 (昭和56)

- 2.26 **第31回全体会** 鳥羽 国際ホテル
神宮司庁 佐藤 昭典 神宮官掌
「神宮をささえるもの」
矢野 憲一 神宮権弥宜 佐藤 昭典 神宮官掌
「1500年つづくもの」
- 6.17 **第9回総会 第32回全体会** 東京 パレスホテル
新赤坂クリニック 松本 康夫 院長
「攻めの健康法、守りの健康法」
- 8.28 **第33回全体会** 名古屋 名古屋観光ホテル
名古屋商工会議所 三宅 重光 会頭
「オリンピックについて」
- 11.20 **第34回全体会** 広島 広島グランドホテル
マキ・レディス・トレーニングルーム 菅原 マキ氏
「経営者のための健康体操」

- 2月 神戸ポートピア81開幕
- 4月 米国人宇宙連絡船「スペースシャトル・コロンビア」初飛行
- 5月 日米自動車摩擦、乗用車の対米輸出規制
- 6月 運輸省が隔地間一貫輸送の規制を緩和
- 10月 北炭夕張炭坑火災、死者93人
- 12月 宅配便取扱個数が約1億個で郵便小包を超える
- ◆ 国鉄赤字1兆円を突破
- ◆ 物流子会社の一般荷主開拓すむ



省力荷役の決め手としてターミナルに設置された自動仕分け機

1982 (昭和57)

- 3.5 **第35回全体会** 熱海 大月ホテル
東京芝浦電気(株) 鬼頭 明 物的流通部長
- 6.24 **第10回総会 第36回全体会** 東京 パレスホテル
東レ(株) 物流担当 堀江 理事
- 8.7 **第37回全体会** 仙台 三井アーバンホテル
山田 新作氏
「リーダーシップ」真珠湾特攻体験を通じて
- 11.18 **第38回全体会** 富山 富山第一ホテル
北陸経済研究所 杉木 正享 常務理事
「これからの経営課題について」

- 2月 経済企画庁、GNPゼロ成長見通し
東京・ホテルニュージャパンで火災
日航機が羽田沖に墜落
- 4月 500円硬貨発行
- 6月 東北新幹線(大宮~盛岡間)開業
- 11月 中央高速自動車道が全面開通
上越新幹線(大宮~新潟間)開業
- 12月 行政管理庁が通運・トラック事業規制見直しを勧告
- ◆ 在庫調整が浸透・営業倉庫の稼働率低下
- ◆ 物流革新がハードとソフトの両面ですすむ

1983 (昭和58)

- 6.17 **第11回総会 第39回全体会** 東京 パレスホテル
東京芝浦電気(株) 山本 直三 OA機器事業部長
「オフィスオートメーション時代の物流業」
- 9.2 **第40回全体会** 札幌 京王プラザホテル
トヨタカローラ札幌(株) 高柳 邦夫 取締役サービス本部長
「サービス業におけるTQCとは何か」
- 11.18・19 **第41回全体会** 川崎 日本電気研修センター
ヘルシーライフ協会 主宰 寒河江 徹氏
「現代病に打ち勝つ健康法」
中京倉庫(株) 鈴木 健二 専務取締役
「TQCの導入について」
日本電気(株) 情報処理流通サービスシステム事業部
沼元 康明 第一販売推進部長
「C&C時代における物流業界情報化の動向」

- 3月 中国高速自動車道が下関まで全面開通
臨時行政調査会が「増税なき財政再建」と最終答申
- 4月 千葉県浦安に東京ディズニーランド開業
- 6月 初の比例代表制(全国区)で参議院議員選挙
国債発行残高が初の100兆円突破
- 8月 金融機関の第2土曜日休日スタート
物流業のVAN(付加価値通信網)事業への取組が盛んになる
TQC(品質管理)活動が活発化
国際倉庫協会連盟東京大会が開催



国鉄が東京・大井に開設した東京貨物ターミナル